

胃

がん検診

当院では、**胃内視鏡検査(胃カメラ)**と

胃透視検査(バリウム)の2種類があります。

男性は9人に1人、女性は19人に1人が罹患し、
男性は32人に1人、女性は69人に1人が亡くなっています。
(※1)

胃がんは、胃壁の内側にある粘膜に発生し、徐々に外側に向かって広がります。そのため、胃の表面を観察します。

主な原因

- 多量の塩分
- 喫煙
- ヘリコバクターピロリ菌
- 多量の飲酒



- ✓ 先端についたカメラで、胃の粘膜を直接観察する
- ✓ 早期で小さながんを見つけることができる
- ✓ 必要時には組織検査をできる
- ✓ 終了後はすぐに普段の生活を送れる
- ✓ 組織検査による出血や麻酔によるアレルギー反応が起こる場合がある

内視鏡検査

- ✓ バリウムを飲んで体位変換しながら、胃の形等をレントゲンで撮影する
- ✓ 深部や胃の外の病変も診断できる
- ✓ スキルス性の胃がんの特化
- ✓ 自身で動いてもらうため体位変換が少し大変な場合もある
- ✓ すべての胃がんを診断できない

それぞれ診断できるがんが異なるため、

内視鏡検査と透視検査を1年毎に受けることを推奨しています。

詳しくは、各外来待合のTVモニタに詳しく載せてあります。
機会がありましたら、ぜひご覧ください。

※1 国立がん研究センターHPより2018年統計
参考文献 国立がん研究センターHP、日本医師会HP